

嘘についてはいけません。そう、親や学校で教わりました。でも、例えば病気で落ち込んでいる人に「きっと良くなるよ」と励ますことや、一生懸命作ってくれた料理に対して、多少気になることがあっても「美味しいよ」と伝えることは悪いことでしょうか。

介護や福祉の現場でも、相手を傷つけないためや、安心させるための言葉かけが欠かせない場面が多くあります。



優しい嘘の、お話。



施設やサービスを利用する皆さまが不安にならないように、安心感を優先して声をかけることがあります。相手を守るための嘘なのか、自分が面倒を避けるための嘘なのか、後で真実を知った時に、より傷つける結果となってしまうかなどを考える必要があります。優しい嘘には難しさもあります。特に介護や福祉の現場では、「正しさ」と「安心」の間で悩む場面が少なくありません。大切なことは、嘘そのものではなく、相手の尊厳や安心を守るための関わりになっているかという視点です。

**優しい嘘とは、真実を隠すことではなく、
相手への思いやりから生まれる言葉である。**

例えば...「家に帰りたい」という訴えがあった時

利用者「家に帰ります、母が待っているの。」

実際、ご本人は90歳を超え、母親はすでに亡くなっている。

対応例 ×「お母さんは亡くなっていますよ。」

○「お母さんには連絡をしておくので、少し休みましょう。」

○「お母さんが心配なんですね。お茶を飲みながら話を聞かせてください。」



例えば... 夜間の不安が強い時

利用者「誰か泥棒が入ってきます。警察を呼びます。」

対応例 ×「そんなことはありません。」

○「見回ってきました。鍵も閉まっているので大丈夫ですよ。」

真実を訂正することで悲しみや混乱を繰り返させるより、安心につながる対応を優先することがあります。職員が確認した事実を伝えながら安心してもらう対応もあります。ご利用者の安心や尊厳を守ること、不安や苦痛を軽減すること、信頼関係を損なわないこと、そして、最小限に用いること。決して相手を欺くのではなく、その人らしさを理解し、尊重することが大切です。ニーズや価値観をしっかりと把握し、それに合わせたコミュニケーションを図ることが重要となります。

**その人が感じている気持ちや世界観を理解して、
安心できる関わりをもつこと。**

これまで嘘について話題としてきましたが、「嘘をつく」という考え方よりも、ご利用者の言葉の事実に対応するのではなく、その言葉の背景にある不安や寂しさ、役割意識、そういったものに寄り添うことが、優しい嘘を超えた支援と言えるのではないのでしょうか。



きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜
喜らめき銀河タイムス

社会福祉法人 溪仁会 経営理念

一. 安心・安全
二. 信頼・満足
三. 地域に貢献

ひとりと向きあう。

社会福祉法人 **溪仁会**



きもべつ喜らめきの郷 るすつ銀河の杜

発行責任者施設長 木下 雄一



～多世代交流で深まる地域の絆～おかげさまでイベントは無事終了いたしました。多世代交流を通して、人と人とのつながりが暮らしの活力につながることを改めて実感しました。これからも地域との交流を大切に、共生社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

【接遇意識を高める標語。目線を合わせ 100%敬語。】